

普段は目にする事ののない下水道。でも、下水道は見えないところで私たちの安全・安心で、快適な生活を支えています。



役割1 街を清潔にする



私たちが家庭で使って汚れた水（汚水）は、家の下にある排水管を通して下水道管に流れていき、下水処理場に運ばれていきます。

汚水をすみやかに排除してくれる下水道。下水道が整備されることで汚水が直接街に流れなくなるため、街が清潔に保たれ、ハエ・蚊等の害虫や悪臭の発生も防ぐことができます。

役割2 街を浸水から守る



近年、雨の降り方が変わってきています。1時間50mmを超える集中豪雨の年間発生数がここ数年増えてきているほか、短時間で局地的に大量の雨が降る「ゲリラ豪雨」の発生件数も年々増えています。

市街地の雨をすみやかに排除し、私たちの暮らしを守ることも下水道の大きな役割。街に雨水が溜まり水浸しにならないよう、素早く排水してくれているのです。

役割3 身近な環境を守る



街や工場から下水道管を通して流れてきた汚水は下水処理場に運ばれます。
下水処理場でさまざまな処理を行いきれいになった水は、消毒して川や海に戻します。

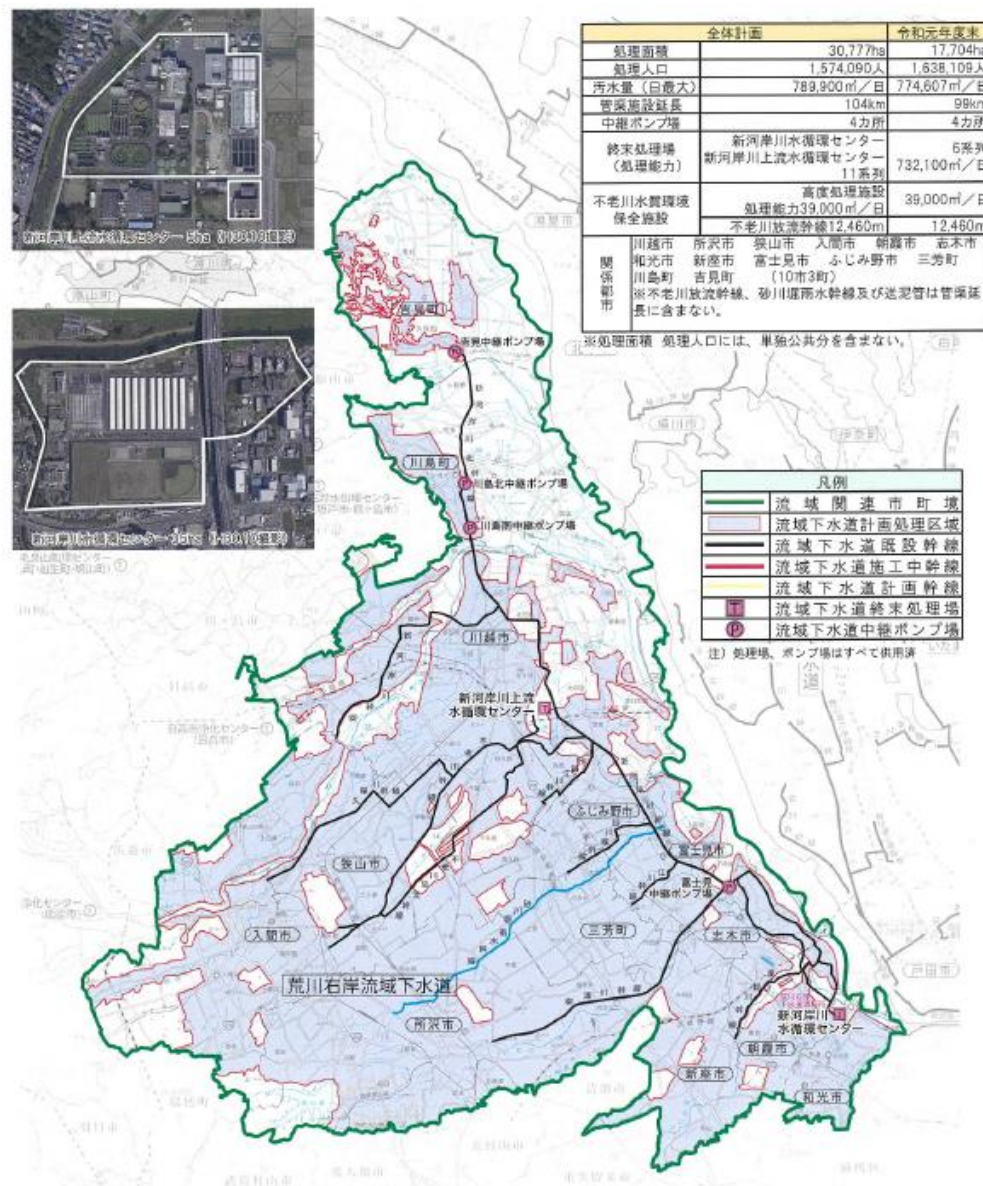
役割4 エネルギー・資源を創る



下水処理場では、汚水をきれいに処理するだけでなく、下水処理場できれいになった水を再生水として利用したり、下水処理の過程で発生したバイオガスを自動車燃料や都市ガスとして利用したり、下水汚泥からリンを回収して肥料を作ったり等、エネルギー・資源を創りだしています。

3. 流域下水道とは 荒川右岸流域下水道事務所

入間市下水道事業の概要 資料5



埼玉県荒川右岸下水道事務所は、県内にある8つの流域下水道事業のうち、川越市、所沢市、狭山市、入間市、朝霞市、志木市、和光市、新座市、富士見市、ふじみ野市、三芳町、川島町及び吉見町の10市3町を対象とする荒川右岸流域下水道事業を推進するために設置されています。

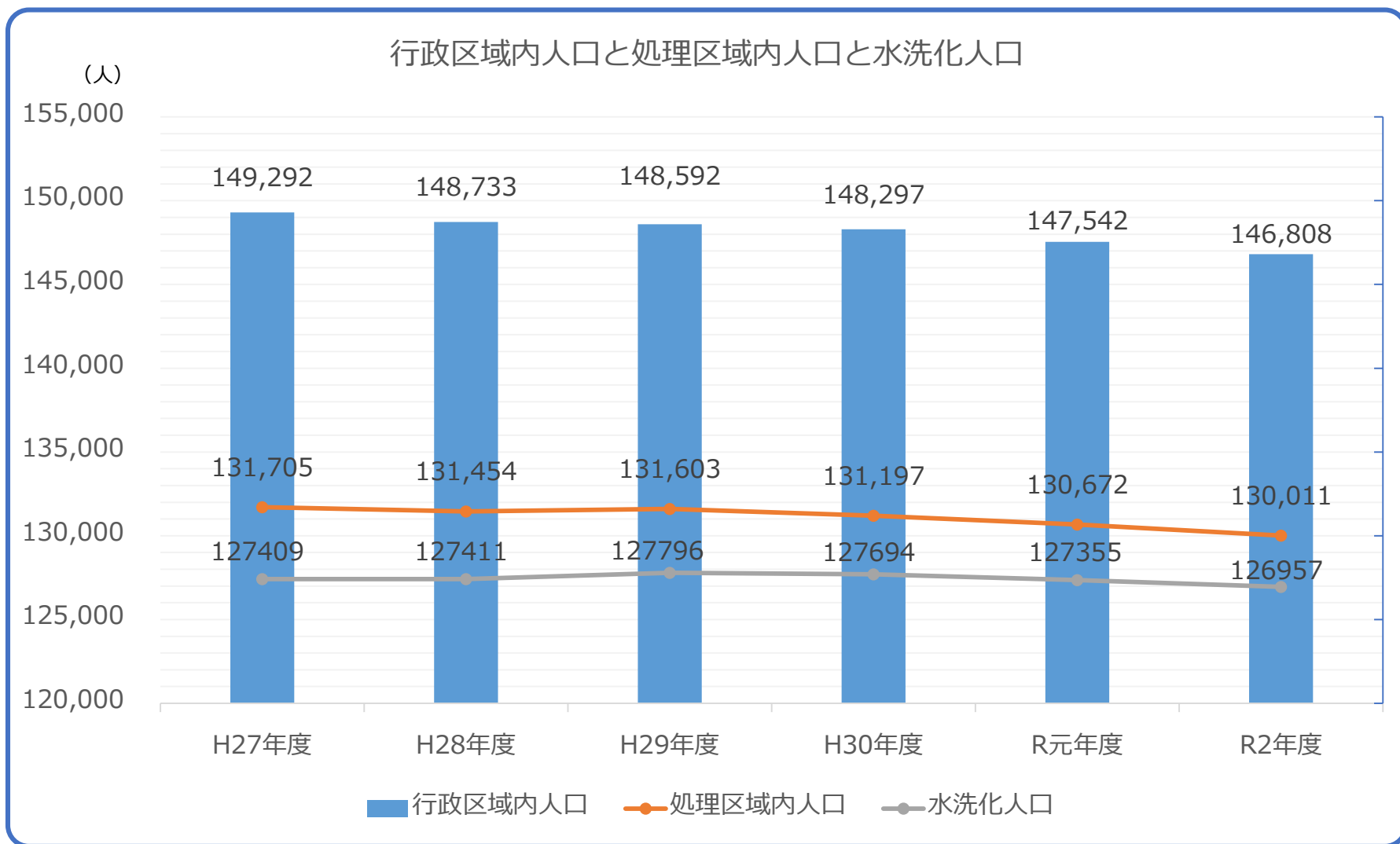


- 本市の公共下水道事業は、分流式公共下水道として昭和45年に都市計画決定の
手続き及び承認を受け、昭和46年に都市計画法及び下水道法の認可を雨水・汚
水ともに豊岡地区の394haで取得し、当初単独公共下水道でスタートしました。
- その翌年、埼玉県が事業主体となる荒川右岸流域下水道の設立とともに入間市
もこれに加入し、流域関連公共下水道として再出発をしました。

項目		面積（ha）	
行政区域面積		4,469.0	
市街化区域面積		1,568.4	
市街化調整区域面積		2,900.6	
全体計画面積	汚水	2,791.0	
	雨水	2,743.9	
都市計画決定面積	汚水	1,644.4	
	雨水	1,370.0	
都市計画法認可面積	汚水	1,644.4	
	雨水	883.6	
下水道法事業計画面積	汚水	1,644.4	
	雨水	964.6	
現在整備面積・率	汚水	1,607.1	整備率97.7%
	雨水	351.1	整備率36.4%

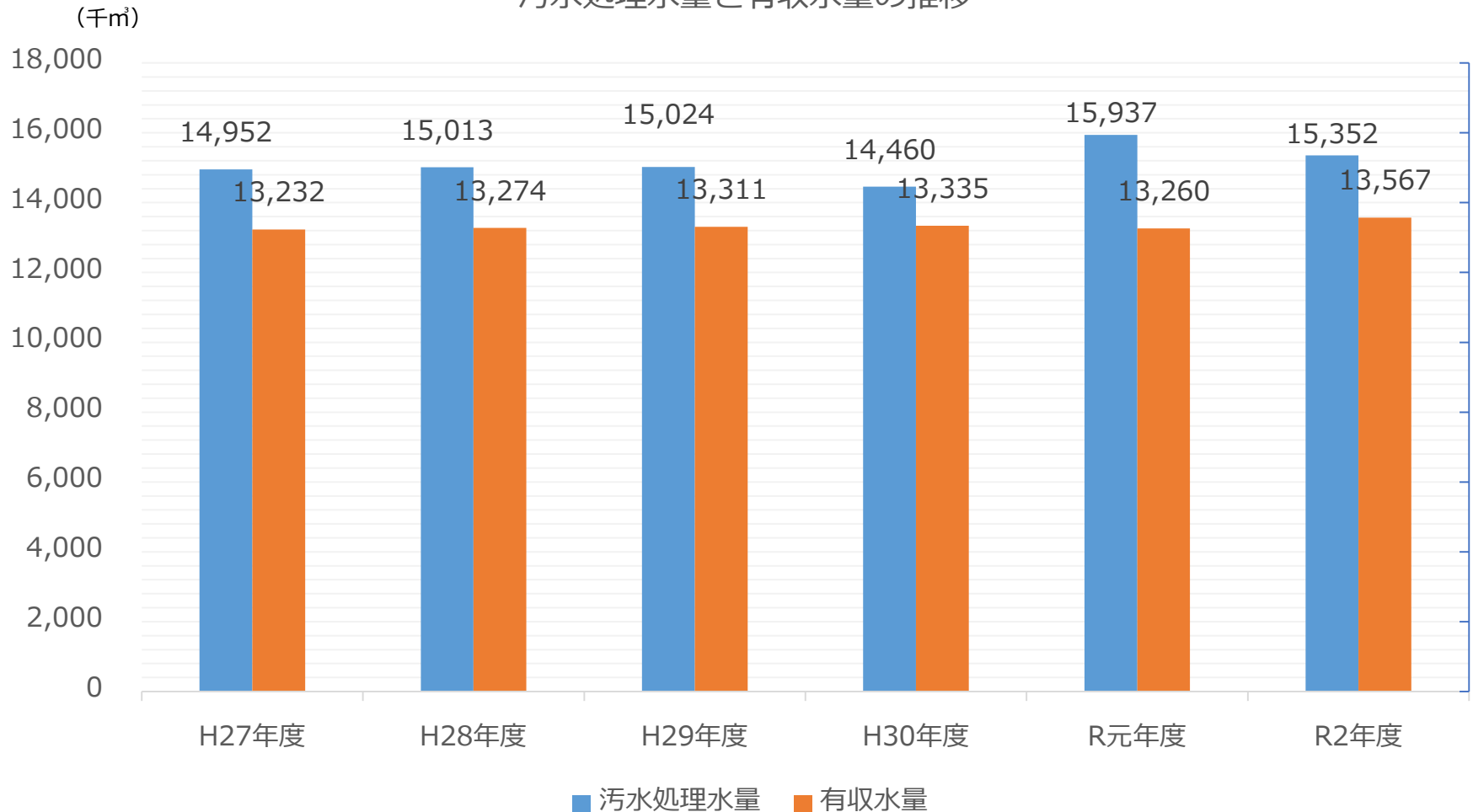
▶ 令和2年度末の整備状況は、
 汚水整備面積1607.01ha、
 処理区域内人口130,011人
 で行政人口146,808人に対
 し普及率は88.6%、また整
 備率は97.7%となり、概ね
 事業計画区域内の整備は完
 了しております。今後の下
 水道事業については、既存
 管路施設の耐震対策や修繕
 改築等を計画的に実施して
 いきます。

5. 処理区域内人口と水洗化人口の推移



整備はほぼ既成しており、令和2年度の水洗化率は97.65%となっています。また、少子化・高齢化により行政区域内人口が年々減少しており、処理区域内人口や水洗化人口にも少なからず影響を及ぼしています。

汚水処理水量と有収水量の推移



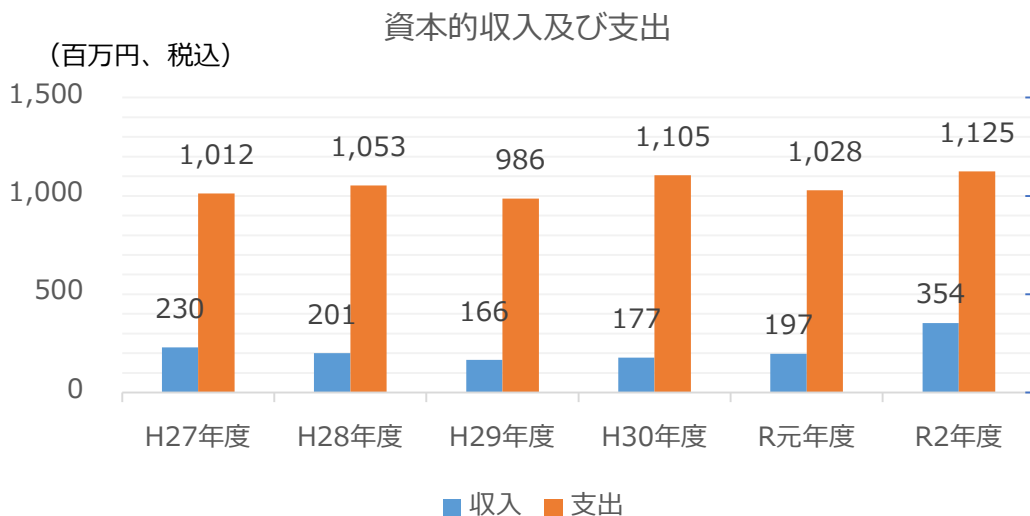
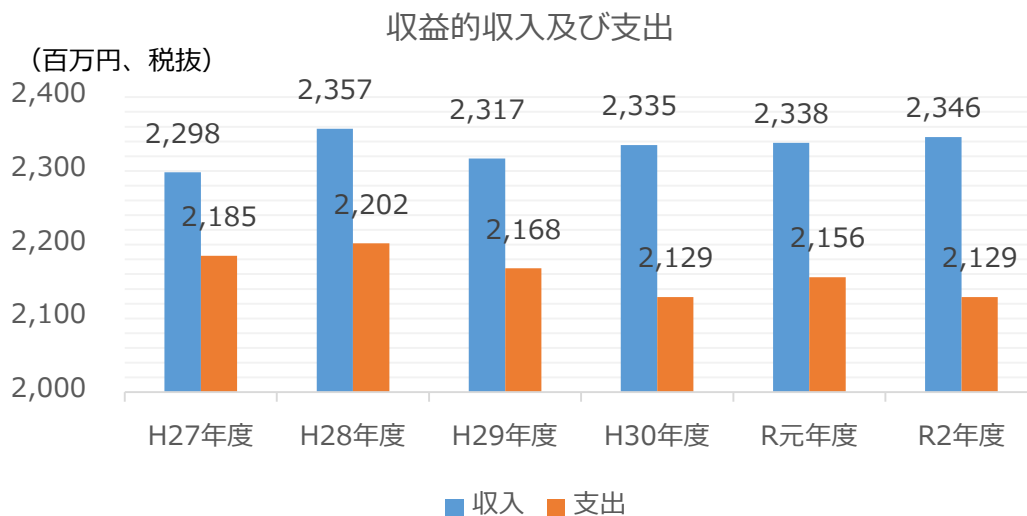
汚水処理水量、有収水量ともに横ばい傾向です。今後、有収率の向上のため、污水管への雨水等の浸入を防ぐための対策（不明水対策）を強化していく必要があります。

7. 下水道事業の財務 収益的収支と資本的収支の推移

入間市下水道事業の概要 資料5

収益的収支（右グラフ） →

当該年度の企業の経営活動に伴い発生すると予定されるすべての収益とそれに対応するすべての費用のことをいいます。



← 資本的収支（左グラフ）

住民に対するサービスの提供を維持するための諸施設の整備、更新等の建設改良のための支出とその財源となる収入のことをいいます。

なお、資本的収支（不足額）は、過年度分損益勘定留保資金等で補填しました。